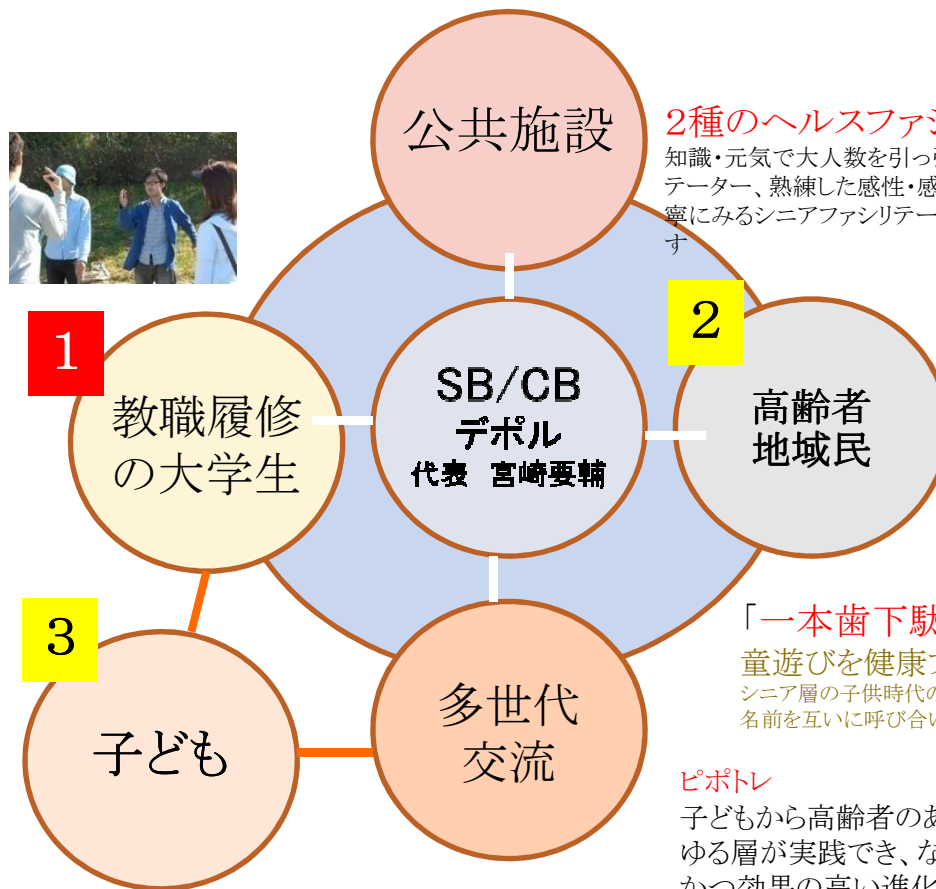


若者と高齢者の次なる関係

—少子高齢化社会に対応できる社会構造を目指して—

《社会的使命》

◆学校の先生達が精神を病む問題が加速しています。このことは昔と比べて地域で先生を尊重する土壌がなくなってきたことや先生に攻撃的な保護者が増えてきたことをはじめ、多くのことが複合的に重なって起きている問題だと思えます。またこのことは別の問題として部活動を本質的に指導できる先生が減り、それによって子どもへの弊害が増えています。本プロジェクトでは公民館を始めとした公共施設との協働の中、学校の先生を目指す若者の心技体を育み、学校の先生の本質を進化させることで子ども達の環境を変えます。



現代の教職志望の学生が抱える問題

教職を目指す学生は教職授業の時間もあり、塾アルバイトしかできない学生が多くいます。このことにより学生時代のコミュニケーションを同世代や子どもとのものばかりになり、晴れて先生になった途端に40代、50代、60代の保護者さんに強いコミュニケーションを強いられ、そこから心が潰れていくのが現状です。またやさしくて真面目な先生が多く「心の逃し方を知らない」ことも大きな問題であり、これを高齢者との触れ合いの中で改善していきます。

鴨川ウォーキング大学

ウォーキングによるコミュニティ形成。誰もが気軽に参加できる市民大学により開かれた場をつくります



2種のヘルスファシリテーター

知識・元気で大人数を引っ張る若者ファシリテーター、熟練した感性・感覚で個人個人を丁寧にみるシニアファシリテーターがペアで教えます



「一本歯下駄わらべ遊びプログラム」

童遊びを健康プログラムとして再構築
シニア層の子供時代の記憶を掘り起こす健康交流プログラム
名前を互いに呼び合い若き日の記憶を含む交流で若さをつくります

ピポトレ

子どもから高齢者のあらゆる層が実践でき、なおかつ効果の高い進化した健康プログラム

